



# 大学院だより

## 令和 5 年度大学院歯学研究科入学式

令和 5 年度の東京歯科大学大学院歯学研究科入学式は、新型コロナウイルス流行が消退しつつあるため、4 年ぶりに特に制限をすることのない形式で挙行されました。令和 5 年 4 月 3 日(月)午前 10 時より、28 名の新入大学院生を迎えました。澁川大学院教務部長による新入生の呼名紹介の後、一戸達也学長と齋藤淳大学院研究科長からの新入生を激励する訓辞をいただきました。さらに、東京歯科大学同窓会澁谷國男会長にもご挨拶をしていただきました。そして、最後に新入生を代表して倉持瑠佳大学院生(矯正歯科学講座)が宣誓し、入学式は終了しました。入学式終了後、福田謙一学生部長による研究の捏造、改ざん、盗用など問題行動による影響が如何なるものかなど、研究に取り組む上での倫理に関する講習会と大学院生活の注意点や履修に関するオリエンテーションが行われました。



令和5年度東京歯科大学大学院歯学研究科入学者一覧

番号	氏名	所属講座
1	赤堀 元彦	口腔健康科学（摂食・嚥下リハビリテーション）
2	浅井 七海	パーシャルデンチャー補綴学
3	石原 和奈	保存修復学
4	榎本 彬乃	口腔健康科学（障害者歯科・口腔顔面痛）
5	小鹿山 知実	口腔顎顔面外科学
6	荻原 朱音	口腔顎顔面外科学
7	粕谷 政央	口腔インプラント学
8	倉持 瑠佳	歯科矯正学
9	古川 紗都	パーシャルデンチャー補綴学
10	小林 郁美	口腔インプラント学
11	小林 裕武	歯科矯正学
12	齋藤 幸	口腔腫瘍外科学
13	塩谷 美帆	歯科矯正学

14	白井 健太郎	口腔健康科学（摂食・嚥下リハビリテーション）
15	田中 智人	解剖学
16	中澤 正成	歯科麻酔学
17	中島 信太郎	口腔病態外科学
18	中田 貴大	口腔病態外科学
19	南保 隼人	口腔顎顔面外科学
20	西村 光正	口腔病態外科学
21	羽毛田 真佑花	保存修復学
22	堀 千晶	口腔病態外科学
23	松原 黎	口腔インプラント学
24	宮本 依利	解剖学
25	楊 天意	解剖学
26	吉原 寛明	歯科矯正学
27	冷 然	歯科矯正学
28	和田 優希	歯内療法学



令和5年度東京歯科大学大学院歯学研究科入学者一同

## 令和5年度大学院新入生 学外総合セミナー開催



令和5年度大学院新入生学外総合セミナーは、2023年6月1日（木）～3日（土）の2泊3日で、「御殿場高原ホテル・時の栖 Hotel Brush upにて行われました。2日目と3日目は悪天候に遭遇し、帰路のための迎えのバスが遅れて到着するという不運がありましたが、熱い議論が行われるなど充実した時間

を過ごすことができました。参加者は、新入大学院生 27 名と齋藤淳大学院研究科長、澁川義幸大学院教務部長、福田謙一大学院学生部長及び堂地一利大学院事務の大学院関係者の他、口腔科学研究センター溝口利英教授、北海道医療大学歯科麻酔学教授で、当大学水道橋病院ペインクリニック科にて臨床教授を務めていただいている照光真先生に同行していただきました。参加者は、6月1日木曜日の9時に全員水道橋に集合して、バスにて御殿場に向けて出発しました。初日は、まずまずの晴天でした。予定通り、お昼前に現地に着し、昼食後、各大学院生の自己紹介が行われました。各々大学院に入学した動機や最近特に取り組んでいること、興味があることなど、しっかりと自己アピールをしていました。



親睦の開始に各々が自己をしっかりアピールしました！



各自の自己紹介に続いて、照光先生の講演が行われました。照光先生ご自身のTVアナウンサーから研究者へというユニークな経験の紹介とともに、研究とは何か、大学院生は何をすべきか、研究を開始するに当たって研究者はどのように行動すべきかなどとともに研究の楽しさについても、熱心に語られました。とても貴重なお話で、有意義な時間となりました。



研究者のあり方や研究の楽しさについての熱弁される照光先生、溝口先生と熱心に聴講する大学院新入生

照光先生に続いて、溝口先生の講演が行われました。溝口先生がこれまでに遂行されてきた膨大な研究結果資料から、研究とは何か、また研究に取り組むための心構えや具体的な研究方法まで様々な研究に関する貴重なお話をされました。とても、有意義な時間となりました。

初日の夕食は、滞在のホテルにて少々のアルコールとともに懇親会が行われ、親睦を深めました。



各々、富士山を背に少々のアルコールとともに親睦を深めました。



2日目は、台風の到来とともに、天候が一気に悪化してきました。外の様相は、全く感じられない環境で、4班に別れて英語論文抄読発表会が行われました。今年も、素晴らしい発表ばかりで、優秀賞の選抜には各班とも悩んだようでした。事前の準備においての各講座のきめ細かいご指導に大学院一同、大変敬服致しました。



英文抄読発表会：プレゼンテーションも内容のまとめ方も各々、素晴らしかった。





英文抄読発表会：質疑応答も活発であった。

午後からは、福田学生部長が、今後の自分の研究を遂行していく上での研究のデザインの立て方についてお話し、「身近なCQを解決する研究を作ってみよう」というグループ学習の課題を提示しました。その課題に対して、5班に別れてグループ討論が行われました。3日目の課題に対する討論の結果発表に備えて、パワーポイント制作が熱心に行われました。

2日目の夕食は、土砂降りの中、ホテルから100mほど離れたレストラン（毎年恒例のバイキング）にやや多めのアルコールとともに懇親会が行われ、親睦を深めました。



2日目の晚餐：楽しく飲み、語りました。



第3日目は、課題学習に対するグループごとの発表が行われました。どのグループも、魅力的なCQを掲げ、また印象的で素晴らしいプレゼンでした。



説得力のある印象的なプレゼンでした。



課題の発表後、質問に答えるグループ学習優秀賞受賞グループ





質疑応答も活発に行われました。

新入大学院生にとって、大変充実した3日間でありました。英文学術雑誌抄読発表会において優秀賞に選抜された赤堀元彦大学院生、粕谷政央大学院生、古川紗都大学院生、齋藤幸大学院生の4名に本セミナーの感想記を書いていたきました。

## 2023年度 大学院学外セミナーを終えて

口腔健康科学講座 摂食嚥下リハビリテーション研究室  
赤堀 元彦

この度、御殿場にて行われた大学院新入生学外総合セミナーに参加させていただきました。セミナーでは、照光教授による講演、溝口教授による講演や英文学術誌発表、さらに提示された課題に対するグループディスカッション及び発表が行われ、有意義な時間を過ごさせていただきました。

照光教授による講演では論理学を用いたアプローチ、溝口教授による講演では具体的な論文の読み方など、これから研究に向き合うことになる自分たちにとっての重要なヒントをご教示いただきました。

セミナーでは、各自英文論文を1編選び、その内容について発表するという事前課題が出されていました。論文の検索法に始まり、興味があるテーマに関する論文を抽出し、英文を翻訳、統計に関する知識を再確認、スライドに要点となる部分をまとめ、プレゼンテーションするという過程それぞれに苦戦しました。特に10分という時間制限の中、どの情報をスライド化し、どの部分に力を入れて説明すべきなのかという点においては発表当日まで試行錯誤していました。根気よく支えて頂いた講座の先生方には感謝しかありません。

発表会では、様々な分野や統計方法などを聴講し、理解するのが大変でした。しかし質疑応答がしやすい雰囲気になってくださったため、普段ならわからなくても良いかと流してしまっただけかもしれませんが、今回は積極的に質問でき、それぞれの発表について理解しようという気持ちになりました。論文の選択からスライド製作、プレゼンテーションの方法など、学部生の時まででは得られない視点や知識も数多く得ることが出来ました。

懇談会においても、講座内の枠を越した縁が広がりました。このため、大学にもどった後も、廊下ですれ違っていただけだったのが、軽く挨拶を交わし、ちょっとした世間話をするようになりました。

最後に、学外セミナー開催にお力添えいただいた斎藤教授、福田教授、渋川教授、大学院事務部門の堂地さんをはじめ関係者の皆様ご厚く御礼申し上げます。

## 学外セミナーを終えて

口腔インプラント学講座  
粕谷 政央

御殿場で過ごした大学院学外セミナーの三日間は毎日違う刺激が得られました。初日は北海道医療大学の照光真教授、東京歯科大学口腔科学研究センターの溝口利英教授のお二方のご講演、二日目に各々が準備してきた英文学術誌に関する発表、三日目にグループによる課題に対して討論した内容の発表が行われました。

初日の講演では、照光教授による研究の組み立て方や研究への姿勢に関してのお話を聞き、大変強く感銘を受けました。また講演の中で、ノーベル物理学賞を受賞された湯川秀樹先生についてのお話もありました。十個質問して八個は当たり前のことを聞くが二個ぐらいいは思いもしない突飛な質問が出てくる、ほとんどの質問で分かりきった返事が来て毎回落ち込んでいた、というお話のおかげで今まで講座内の集まりではなかなか質問する勇気がなかった自分が、このセミナー期間中は急に人が変わったかのように誰かが発表する度に質問していました。優秀賞には自身の発表内容だけで

なく、他者の発表に対する姿勢も評価に入るとのことだったので、このことも大きく影響したのではないかと思います。

この度は優秀賞をいただき、誠に光栄に思います。英文学術誌の抄読は、インプラント科の先輩方にご迷惑ばかりおかけしましたが、熱心に指導していただいたおかげで優秀賞を受賞することができました。この賞は、口腔インプラント学講座の先生方のご協力があってこそだと思っております。実際は最後までやりきることができず、中途半端な形で発表に臨むこととなりましたが、よい結果を残すことができました。この経験を今後の研究や学会発表などに生かしたいと思っております。

## 学外セミナーに参加して

パーシャルデンチャー補綴学講座

古川紗都

東京歯科大学本館をバスで出発して数時間。田園風景が徐々に広がり、富士山が間近に迫ると会場の「時の栖」に到着しました。大学院生最初のイベントに対して、多少の不安はありつつも楽しみであったことはいまでもありません。

私は1年前、専修科生としてパーシャルデンチャー補綴学講座に入局しました。その時は「大学院に入る」という選択肢は全くありませんでした。一番の理由は「先の見えない不安との戦いになる」と先輩方から聞いていた研究に対して、自分がやり遂げる姿が想像出来なかったからです。それでもその後、研究したいテーマが見つかり今年度から大学院生となりましたが、先の見えない不安は大学院入学を決めた時からずっとありました。しかし、今回の学外総合セミナーを経て、この4年間を乗り越えるには同期の仲間が存在が大きいと強く感じました。

在籍していた学年や出身校も違うために最初は全くの他人だった人たちのことが、何度かあった食事の時間やディスカッションの時間を通じてだんだん分かってきました。2日目の台風直撃下のバイキングでも初めて話すメンバーが増え、あっという間に知らない人がいなくなりました。全員が、世に言う「切磋琢磨しあえる相手」になったと思えました。

また、英語論文発表グループとディスカッショングループでは、活発に発言するメンバーに引っ張られたおかげか、苦手意識を持っていた「質問をすること」に対して



少し克服することができました。と同時に、自らの研究分野とは全く異なる分野に興味をもち、挑もうとする同期の姿勢に鼓舞されました。分野は異なれど、世界中で未知とされていることを明らかにするという目的は、このセミナーに参加した大学院生全員に共通しています。学外総合セミナーは、講義、ディスカッションなどを通してそれを再確認し、辛くなった時に相談しあえる同期の仲間を作るための大切な時間であったと確信しています。研究で躓いても、共に最後まで頑張ろうと思います。

台風が過ぎた3日目の空はまだ少し不機嫌で、富士山はその姿を見せてはくれませんでした。仲間と親睦を深められた貴重な3日間でした。

## 学外セミナー 感想

### 口腔腫瘍外科学講座

齋藤 幸

大学院生活で初となる、二泊三日での学外セミナーについての感想等について述べさせていただきます。最初に感じましたことは、他講座の同学年の大学院生がいることに対する新鮮味でした。市川総合病院の大学院生は現在私しかおらず、院生の同期と呼べる存在とコミュニケーションをとる機会がなかったからです。様々な講座の大学院生と交流をはかることによって、大学院生としての見聞を広めることができました。

私事ではありますが、今回の学外セミナーにて開催されました英文発表にて、賞を受賞致しました。しかし、発表に選んだ論文のインパクトファクターは非常に高いものであり、発表準備に大変苦戦致しました。講座内でも予演会を複数回行いましたが、講座の先生方から多数のご指摘を受けました。特に問題であったのが発表時間を超えてしまうことでした。論文発表の場では発表時間は厳守されます。1秒でも超えてしまうと、その時点で発表を中断しなければならないからです。今回担当となって下さった先生と綿密な打ち合わせを行い、発表に臨みました。その甲斐もあり、英文発表賞も受賞することができました。市川総合病院での診療と発表準備の両立は大変厳しいものでありましたが、この経験はこれからの大学院生活にとって大きな財産になると信じております。

準備期間を含め、今回の大学院学外セミナーでは充実した時間を過ごすことができたと感じております。また、論文発表の準備に携わってくださった先生方、今回の大学院学外セミナーという素晴らしい機会を与えてくださった先生方に感謝の意を申し上げます。

## 編集後記

本年度は、28名の大学院生が入学してきました。例年より、少なめの入学者数ですが、学外セミナーには元気に参加しました。将来への期待を感じる有望な若者たちでした。歯科界を背負う専門家を目指して、頑張っていたいただきたいものです。

国連の事務総長がある講演で、地球の温暖化は終わり、地球沸騰化の時代が到来したと話したようですが、地球がおかしくなっているのでしょうか。6月に台風が日本に上陸するのは記憶がありません。6月2日に東海、関東地方を通過した台風は、今年の大学院生学外セミナーは遭遇してしまいました。御殿場高原ホテル・時の栖 Hotel Brush up 前の川は、いつも水がほとんどないのですが濁流になっていました。ただ、最も悪天候だった2日目は、全てが室内活動だったので、特に影響なく充実した3日間でした。（福田 記）



御殿場高原ホテル・時の栖 Hotel Brush up 前の濁流